

2017年度男女共同参画推進ワークショップ開催報告

標 題 イノベーションを創出する人材の育成
-女子学生から女性研究者へのパイプラインの構築-

日 時 2017年10月27日(金) 15:00~17:00

会 場 芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟5階大会議室

趣 旨 ダイバーシティを推進する上で、とくに女性が少ない機電系をはじめとする理工学系分野で、女性研究者・技術者育成のパイプラインを構築し、女子学生増-女子の大学院進学促進-女性研究者・技術者の増加-女性研究者・技術者の上位職登用促進、の好循環を実現することは、全国的にも芝浦工業大学にとっても喫緊かつ中長期的施策を要する課題である。先進的取組事例を手掛かりに、芝浦工業大学としてのパイプライン構築の取組を具体的に一步進める。

プログラム

別紙の通り

参加者 17名

村上雅人学長	守田 優副学長	
國井秀子学長補佐/男女共同参画推進室長		吉武良治学長補佐
ミリアラ・ムランダ学長補佐	三好 匠国際交流センター長	
武田貞生複合領域副本部長	坂井直道研究推進室長	山本創太工学部長補佐
榊原暢久工学部教授	内藤和美教育イノベーション推進センター特任教授	
吉川倫子豊洲学事部長	丁 龍鎮大宮学事部長	白石美知子豊洲学事部次長
鈴木 洋教育イノベーション推進センター事務課長		宇佐美優里豊洲学事課職員
星 由華教育イノベーション推進センター事務課職員		

内容

守田優副学長の挨拶で開会した。

1. 背景と課題の説明

國井 秀子 学長補佐/男女共同参画推進室長/MOT 教授

まず、データにより、研究者、企業等の役員、および工学部学生の女性割合の低さ、および、技術系産業の人材ニーズの高い分野にとくに女性が少ないことが示された。

こうした現状を踏まえ、初等中等教育期からの理工系女性研究者・技術者育成のパイプライン構築のためにポジティブ・アクションを採る必要があること、および、社会のニーズに合ったキャリア支援、専門分野のロールモデルの提供、人脈構築の支援等理工学系分野女子学生のキャリア構築支援を強化する必要があることが述べられた。産官学民連携による女性活躍のエコシステムの構築の強調を以て締めくくられた。

2. ゲスト・スピーチ

大島 まり 東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授

専門 バイオマイクロ流体工学、科学技術教育

データにより、女性の教育水準が高いにもかかわらずその力が十分社会で活かされていないこと、工学・科学技術分野に女性が少ないこと等、日本社会および科学技術、高等教育における男女共同参画の状況と課題が示された。次いで、東京大学の実践例をも用いて、理工学系分野での女性研究者・技術者育成のパイプライン構築、女子学生増—女子の大学院進学促進—女性研究者・技術者の増加—女性研究者・技術者の上位職登用促進、の好循環実現に向けて取り組むべき課題を話された。トップダウン、すなわち大学等組織がすべきこととして、ライフイベントとキャリア形成のコンフリクトが生じる時期をはじめとするワーク・ライフ・バランスの支援体制を整え、組織文化の変革を伴う女性の真のインクルージョンを進めることである。ボトムアップには、まず何より、理工系分野の魅力と可能性を伝え、明確なイメージをもてるようにしていくことである。一般に医療系、教職等資格、免許への信頼感が強い女子小中高生と保護者には、STEAM 教育 (Science & Technology, interpreted through Engineering & the Arts, all based in Mathematical elements) や産学連携の教科外学習機会の提供を通じて、社会をデザインしていく理工系分野の魅力、就職の強み、多様なキャリアパス、そしてロールモデルを伝えていくことが重要である。学部生・大学院生には、専門職の強みと、長い目で見たキャリア構築の可能性を呈示してモチベーションを形成していくことなどが挙げられる。ダイバーシティ&インクルージョンによる理工学分野・科学技術の持続的発展可能なシステム再構築を展望して締めくくられた。

3. ラウンド・テーブル・ディスカッション

ファシリテーター 山本 創太

工学部機械機能工学科/工学部長補佐/工学部男女共同参画推進担当以

以下を主な論点に意見交換が行われた。

〈女子が機電系をはじめとする理工学分野を選択しないこととそれへの対策〉

◇課題

- ・女子中高生にとって機電系をはじめとする理工系分野は、職業や、役立ち方のイメージが沸きにくい。
- ・高校での理系の学習が、数学/物理/化学/生物/地学と縦割りになっていて、それが統合された工学や実社会の科学技術と結びつきにくい。
- ・中学の理科、高校の物理/化学の教諭は理学部か教育学部の出身で工学を知らないのでその魅力を伝えられない。
- ・高校で女子が物理嫌いになっていく、あるいは高校1~2年の数学が壁となって文転することが少なくない。
- ・発達期を通じた少しずつのジェンダー・バイアスが積もり積もって格差を生んでいる。

◇対策

・大島：教科の壁は厚い。むしろ、産学が連携して教科外の学習機会をふんだんに提供していく方が有効と思う。

・大島：産業ニーズの高い分野への女性の参入は、イメージが固定している伝統的分野より、新たな分野、これから発展が見込まれる分野の方が進めやすい。

・早期から理工系分野のおもしろさや職業に接し、強い関心や目標が形成されれば物理や数学に関して多少困難があっても「もういいや」と諦めずに頑張れる。女子小中学生への情報と機会の提供に注力する必要がある。

・キャリア教育の高大接続も重要である。理工学の魅力、生活と社会への役立ち方、職業イメージ等を、発達各期で示していくことである。知れば良さがわかってもらえる。

〈ポジティブ・アクション〉

・縦横にこれだけの偏りがある状態では、ポジティブ・アクションによる女性への特別な機会提供が不可欠である。STEAM への進出から上位職登用まで各段階で、理工学分野での女性の活躍をエンカレッジしていく必要がある。それが効果をあげることを前職場で経験してきた。

・インドは、責任ある立場への登用にも、STEM 分野への進出にもポジティブ・アクションを行っている。

〈女性研究者・技術者のキャリア形成のパイプラインとライフイベント〉

◇課題

・女子のみならずだが、現在、研究キャリアの創始期にある若手の多くが、不安定でキャリアパスが不確実な有期雇用下にある。安定した研究職を得るまでの間をどのように支えたらよいだろうか。年齢的に、ライフイベントも重なった場合はなおさらである。

・大島：博士課程終了者の出口、活躍の途を拓げ、研究者だけでなくしていくことが1つ。妊娠・出産～育児によるワーク・ライフ・バランスの逼迫時には、それによって研究が一時的にスローダウンしても続けてさえいればリカバリーできることを伝え、励ましていくことが重要である。

・妊娠・出産はともかく、育児・介護等ライフイベントによる研究キャリアへの負荷が女性研究者の支援課題となること自体が問題である。

ゲストスピーカーのコメント

大島まり教授

密度の濃い意見交換ができた。理工系分野の女子学生増—女子の大学院進学促進—女性研究者・技術者の増加—女性研究者・技術者の上位職登用促進のパイプラインの構築、それによる理工系分野と科学技術のダーバースィティ&インクルージョンを進めるには、個別機関の取組を種々の機関の連合活動に展開していく必要がある。

総括

村上雅人学長

芝浦工業大学の現在の男女共同参画推進の取組は未だポジティブ・アクションではない。かつてのネガティブ・アクションがようやくノーマル・アクションになったところ、むしろこれからである。

成果と課題

ゲスト・スピーチとラウンド・テーブル・ディスカッションを通じて、女子が機電系をはじめとする理工学分野を選択しない背景、それへの対策、女性に対するポジティブ・アクション、女性研究者・技術者の形成のパイプライン構築について課題と方策が明確になり、認識が深まり、開催趣旨を果たすことができた。

一方、より多くの教員が参加できる日程設定、周知・参加の働きかけ方は改善を要する。

別紙

芝浦工業大学 2017 年度第 1 回男女共同参画推進教員ワークショップ

**イノベーションを創出する人材の育成
—女子学生から女性研究者へのパイプラインの構築—**

日時:2017 年 10 月 27 日(金)15 時~17 時

会場:豊洲キャンパス 研究棟 5 階大会議室

ゲストスピーカー:大島 まり 先生

東京大学大学院情報学環および生産技術研究所教授

日本機械学会会長

プログラム

- | | | |
|-------------|------------|----------------|
| 15:00~15:03 | 開会挨拶 | 守田 優副学長 |
| 15:03~15:15 | 趣旨と課題の説明 | 國井秀子男女共同参画推進室長 |
| 15:15~15:45 | ゲスト・スピーチ | 大島まり教授 |
| 15:45~16:40 | グループでの意見交換 | |
| 16:40~16:50 | 各グループの発表 | |
| 16:50~16:55 | コメント | 大島まり教授 |
| 16:55~17:00 | 講評 | 村上雅人学長 |
- 閉会